

月報アルバム

堂平観測所で撮影された池谷・関彗星 (1)



① 1965年9月26.8日(U. T.)
撮影されたもの。地球からの距離
0.85 天文単位。まだ尾は見えて
いない。堂平 91 cm 反射鏡の主
焦点で撮影。

② 同年10月1.8日撮影。距離
0.79 天文単位。大分明るくなっ
ている。



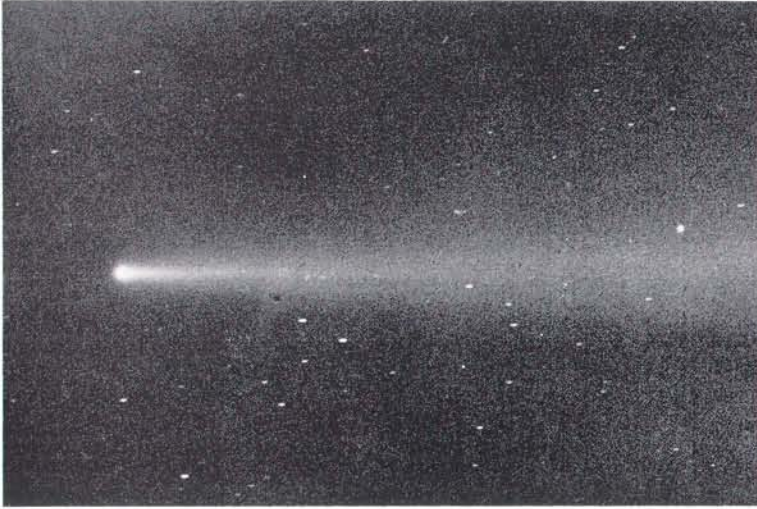
③ 同年10月3.8日、距離0.
73 天文単位。



④ 同年11月12.8日、近日点
通過後のもの。2個に分裂した有
様が見える。距離0.85 天文単位。
スケールは、各写真の横はばが
21' にあたる。



堂平観測所で撮影された池谷・関彗星(2)



上は1965年11月1日, 4h50mから55m (J.S.T.)まで, 下は11月23日, 4h32mから42m (J.S.T.)まで露出したもの。堂平の50cmシュミット・カメラによる。上は左右 5° の程度のはばで, 尾が最も明るい時期である。下は尾がうすくなった時で, 一見すれば尾が短くなっているが, 薄い尾がかなり長く流れているのがわかる。場所はうみへび座とポンプ座の境目あたりで, 中央よりやや右下の明るい星は G. C. 14873 (5.9等), 赤経10時45分53秒, 赤緯 $-31^{\circ}25'25''$ (1950)である。左右約 4° の広さである。





岡山天体物理観測所で観測された池谷・関彗星

左は、岡山天体物理観測所の190センチ反射鏡の、クーデ分光器によってとられた池谷・関彗星のスペクトル。近藤雅之氏撮影。太陽のフラウンホーファー線にまじって、彗星に特有な、 NH_2 、 Na の D 線、 C_2 、 CN 等の線がみえる。対象物の高度がきわめて低いので望遠鏡操作上の困難があり、また明け方の薄明がどの程度の明るさになる時に露出を打切るべきかの判断を適確に行なう必要がある。

下は岡山で野口猛氏撮影。右上の水平の筋はエコー1号、明るいものはペガサス3号である。A はからす座 γ 、B はコップ座 δ 、C はうみへび座 ν 、D はうみへび座 μ 。

